

Information

ご紹介お役立ちブック

ご紹介お役立ちBOOK (2023-2024) が完成いたしました。

当院への詳しい紹介方法や各診療科の得意とする疾患と担当医師、診療内容、専門外来等を一冊にまとめたものとなっております。詳細は下記QRコードからご確認ください。



快眠センター

快眠センターでは、呼吸器内科医、精神科医、歯科および耳鼻咽喉科医師による総合的な診療が可能となっております。さらに循環器内科や糖尿病・内分泌・代謝内科などの診療科と協力して集学的な治療体制の確立と有効な治療法の開発を目指しています。詳細はパンフレットをご覧ください。



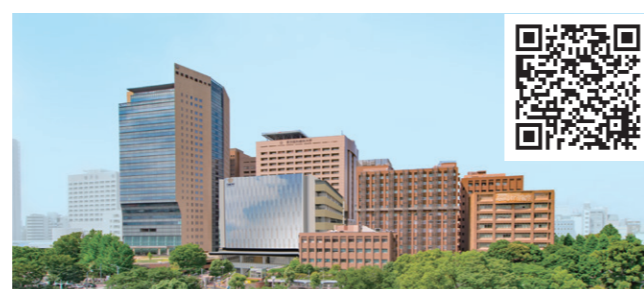
リプロダクションセンター

リプロダクションセンターは、“今すぐ”または“将来”の妊娠・出産を希望する患者さんに、専門的かつ包括的な生殖医療を提供します。周産・女性診療科の生殖医療チームを中心に、泌尿器科・小児科・遺伝子診療科・心身医療科の5つの診療科の専門医や経験豊富なスタッフが、“妊娠成立”に加えて“より安全な分娩”や“出産後の健やかな生活”を治療の目標と考えて、確かな情報のもとに患者さん一人一人に最適な生殖医療を提供します。詳細はパンフレットをご覧ください。



機能強化棟について

2023年10月に竣工予定の機能強化棟は今後、C棟という呼称になります。現在は内装工事中で、ご利用の皆様にはご迷惑をおかけしておりますが、新棟完成を職員一同、期待に胸を膨らませております。工事の進捗状況については、病院HPでご紹介しております。ぜひご覧ください。



東京医科歯科大学病院
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY HOSPITAL

医療連携だより



御茶の水通信

No.31



- 東京医科歯科大学病院の理念と基本方針
- 理念：世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する
 - 目標：1. 患者中心の良質な全人的医療の提供
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と実践
4. 人々の信頼に応える社会に開かれた病院

医療連携支援センター TEL: 03-5803-4655
(地域連携室) 医科 FAX: 03-5803-0119
予約専用FAX: 03-5803-0285



財団法人日本医療評価機構 認定病院



東京医科歯科大学病院
病院長

藤井 靖久 (ふじい やすひさ)

藤井新病院長のご挨拶

4月から東京医科歯科大学病院の病院長を拝命しました藤井靖久です。初回なので少し自己紹介させていただきます。私は、1988年に本学医学部を卒業した泌尿器科医で、悪性腫瘍(腎細胞癌、膀胱癌、前立腺癌)を専門とし、2016年から本学大学院腎泌尿器外科学教室の教授を務めています。その後2020年には本学大学院経営人材養成コースで学ばせていただき、2020年から当院の医療安全管理責任者、2021年から日本泌尿器科学会の保険委員長を務め、病院経営、医療安全、保険について学習する機会をいただきました。

皆様ご存知のように、東京医科歯科大学医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化したのは2021年10月と比較的最近です。これに伴い、病院の理念は、「世界最高水準のトータル・ヘルスケアを提供し、人々の幸福に貢献する」となりました。2つの病院の一体化によって医学と歯学の融合が進み相乗効果を発揮して、「頭から歯を含めて足先まで」トータルに全身を診ることで、今まで以上に患者さんの健康に貢献できる医療を提供することを掲げたものです。

また大学病院の特性を生かして、高度先進医療、高度急性期医療、難病・希少疾患への多面的な取り組みなどに尽力しております。さらに社会に開かれた大学病院として、世界最高水準のトータル・ヘルスケアを社会にお届けするためには、連携病院の皆様のご協力が不可欠です。今後も従来以上に連携病院の皆様との協力関係を大切に育んでまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



東京医科歯科大学病院
医療連携支援センター長
(病院長補佐)

田村 郁 (たむら かおる)

田村センター長のご挨拶

2023年4月より、医療連携支援センター長を拝命してからの2カ月は、ちょうど世の中も当院を含めた大学病院もポストコロナ時代へ舵を切った期間と重なります。ポストコロナ時代の転換期に、高度な医療を提供するという大学病院の役割を果たしていくには、地域医療機関との連携が大切だと改めて感じております。そのためには2月に実施した医療連携会のように、普段は診療情報提供書や電話等でやりとりをしている地域医療機関の皆様と実際にお会いしてお話する機会を持つことは、スムーズな医療連携を推進する上で重要だと改めて実感しております。今春からは、コロナで制限されていた通常の大学病院の診療ができるようになってきたので、より多くの患者さんに医科歯科大学病院で治療を受けていただくためにも、地域医療機関からの多くの患者さんをご紹介いただける様、きめ細やかな対応を心がけてまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。またこの秋にオープンする機能強化棟(C棟)によって、医科と歯科の一体化がより一層進み、当院のトータル・ヘルスケアを多くの患者さんにご提供できるものと期待しております。

新メンバー紹介
センターに5人の新しいメンバー
が加わりました。よろしく
願います!

写真左から

- 医療福祉支援室 高橋 功成 (たかはし こうせい)**
患者さん・ご家族のお力になれるように、精一杯努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。
- 患者相談室 吉木 尚見 (よしき なおみ)**
患者さんが、安全に満足度の高い通院・入院が出来るように支援させていただきます。
- 地域連携室 瀧川 由香里 (たきかわ ゆかり)**
患者さん、そしてご家族の方のお役に立てよう丁寧な対応を心掛け、精一杯努めてまいります。今後ともどうぞよろしく願います。
- 地域連携室 岩崎 美里 (いわさき みさと)**
患者さんにベストなご案内ができるよう日々試行錯誤しながら業務にあたっております。皆様により多くの価値を提供できるよう精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。
- 病棟支援係 塚田 杜彩 (つかた とあ)**
初めてのことばかりで色々と至らない点があると思いますが、少しでも早く皆様のお力になれるよう努めますので、よろしくお願いいたします。



TOPICS

- 新病院長ご挨拶
- センター長ご挨拶
- 医療連携会(2022年度)のご報告
- ご紹介お役立ちブックのご案内
- 機能強化棟について
- 快眠センターのご案内
- リプロダクションセンターのご案内
- 新メンバーのご紹介

医療連携支援センターの役割

- 紹介患者さんのスムーズな受け入れ
- 医療機関からの初診事前予約受付
- 入院・退院患者さんとそのご家族のサポート
- その他の医療・福祉相談



2022年度 医療連携会が開催されました!

2023年3月9日に対面およびWEB配信(後日)のハイブリット形式で2022年度医療連携会を開催し、医師会・歯科医師会・薬剤師会・病院・クリニックなど151機関、総勢190名の皆様にご参加いただきました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大を鑑み、2020年度・2021年度はWEBによる講演会を実施しておりましたが、2022年度は感染対策に留意しつつ、約3年ぶりに対面での開催となりました。地域医療機関の皆様と顔を合わせ日頃の感謝を伝えることができ、職員一同大変貴重な機会となりました。ご多忙にもかかわらずご参加いただき、誠にありがとうございました。第1部では4名の医師・歯科医師による講演会を行い、第2部では日頃お世話になっている地域医療機関の皆様と交流し、貴重なご意見を伺うことができました。講演内容と、当日の様子をご紹介します。

プログラム

第1部 講演会 (M&Dタワー2階 鈴木章夫記念講堂)
演題:「TMDU眼科のご紹介」 東京医科歯科大学病院 眼科 教授 大野 京子
演題:「当院における消化器疾患の特色ある診療について」 東京医科歯科大学病院 消化器内科 教授 岡本 隆一
演題:「東京医科歯科大学心臓血管外科が地域医療に貢献できること」 東京医科歯科大学病院 心臓血管外科 教授 藤田 知之
演題:「最新の東京医科歯科大学におけるインプラント治療」 東京医科歯科大学病院 口腔インプラント科 教授 丸川 恵理子
第2部 情報交換会 医系診療科:3号館2階 医学科講義室1 歯系診療科:M&Dタワー2階 共用講義室2

Program



Report 講演内容のご紹介



眼科

大野 京子 教授

本学を受診される大半の患者さんは専門外来への通院が必要な方です。眼科では、9つの専門外来と2019年に発足した先端近視センターで、眼科的疾患のほぼすべての領域に対応できる診療体制を整えております。

白内障外来では、全身および眼に基礎疾患のある患者さんの手術が多いのが特徴です。白内障手術は屈折矯正手術としての側面が大きいため、術後患者さんの望むような生活が送れるよう、いかに屈折異常を直すかが重要になってきます。

また、網膜硝子体手術についても件数が伸び、適応疾患が拡大していますが、本学には常に7名の硝子体サージャンが在籍し、緊急時にも対応できるようになっております。緑内障の治療にも力を入れており、得意としているのは外科的治療で年間230件以上の緑内障手術(外科的治療)を行っています。

先端近視センターは近視進行抑制部門、屈折矯正部門、病的近視部門の3つで構成されております。本学には約6000名以上の病的近視患者が登録されており、世界最大の診療拠点となっています。病的近視は様々な合併症を起こして失明します。近視は失明に至る最大のリスクファクターであることから本学においては先駆的治療の実践と併せて、新しい手術方法を提案しております。

屈折矯正部門では屈折異常への強みを生かしてICL手術を積極的に行っております。近視進行抑制部門においては新たな治療法としてレッド・ライト治療法を取り入れており、国内初の臨床研究として小児の近視治療に積極的に実施しております。講師以上の外来責任医師がすべての新患の診断・治療方針の対応を行っています。ご紹介お待ちしております。



消化器内科

岡本 隆一 教授

当科は2001年に診療科として独立し診療を行っています。従来の3つの専門外来に加え2023年より胆膵治療内視鏡外来を開設いたしました。また、小腸専門外来も開設し、炎症性腸疾患の専門医が診察を行っています。

本学が一番得意としている炎症性腸疾患の診療は2012年に潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センターを開設して以来、約3000名以上の患者さんをご紹介いただき、症例数が5000例を超える国内最大規模のハイボリュームセンターとなっています。

治療にはMRIを用いたクローン病の全層性評価(MREC)や小腸内視鏡等、これまでの治療実績から生み出した特色ある診断・治療技術を活用しています。また、新薬の治験にも積極的に参加しており、常時30~40件の治験が走っている状態のため、治験を含めた治療を選択できる体制となっております。

2022年4月には炎症性腸疾患に対する幹細胞を使った再生治療について発表させていただきました。こちらは臨床研究として研究を進めている段階です。

肝炎がん撲滅外来においても、協力施設との連携の下、蓄積した症例データを活用し診療を行っています。特徴としては非侵襲的肝繊維化診断を院内で実施しながら診断を行っていることです。

内視鏡治療においては年間200~300例の治療実績があり、1例ごとにリスク評価を丁寧に行っています。胆膵内視鏡治療についても複雑な治療背景のある患者さんであっても、丁寧にリスク評価・安全管理を行ったうえで治療にあたっています。

潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター、肝炎がん撲滅外来は平日毎日、各内視鏡外来は特定の曜日・時間帯でご紹介いただけますので、ご紹介お待ちしております。



心臓血管外科

藤田 知之 教授

2022年2月より心臓血管外科教授に就任いたしました。今後の心臓血管治療はチーム医療が必須で、循環器内科、紹介医の先生方とハートチームとして協力することで患者さんの望む治療を届けられると考えております。

今後日本では人口が減っていくのに対し高齢者の数は増えていく一方です。循環器に関する大半の疾患が動脈硬化=加齢に起因しているため、高齢者になればなるほど心疾患の患者さんが多くなっております。冠動脈疾患はPCIにより外科症例に回ってくる患者さんは減っておりますが、大動脈疾患・弁膜症疾患は増加しています。

これまで在籍していた機関ではかなり多くの手術を経験してきました。その中でもロボット手術は現在進行形で進歩しており、低侵襲・高精度な手術が幅広い疾患の手術で実現できること、実際にロボット手術機器を開発している東京工業大学との統合も控えていることから、今後本学のロボット手術の件数は爆発的に増加することが見込まれます。

大動脈弁治療については、2023年10月に機能強化棟が完成することに伴いTAVIが開始となるため、症例数を増やしていき、カテーテルでの低侵襲弁膜症治療を実現したいと考えております。

また、心不全の治療はこれまで植込型VAD装着術で良好な実績を残していることから本学でも同様の治療を引き続き行っていきたいと考えておりますが、将来的には本学は移植施設を目指し、より多くの患者さんを救っていきたく考えております。精査させていただきますので、手術適応がなさそうでもぜひご紹介ください。



口腔インプラント科

丸川 恵理子 教授

歯がなくなってしまったときにインプラント治療は必要となってきますが、その原因がむし歯や歯周病だけでなく、食いしばりや歯ぎしりによる歯の破折も非常に増えてきております。歯がなくなるということで機能障害・審美的問題・構音障害が生じます。

従来の治療法は、ブリッジ・部分入れ歯・総入れ歯となっていましたが、これらの欠点を補うインプラント治療の需要が増えてきました。患者さんの「よく噛んで食べること」を維持するためにインプラント治療は有用と考えており、今後は医師の裁量を問わず、確実な診断・手術・治療を実現することが目標です。また、医療訴訟件数も歯科において年間約90件程度の割合で生じているため、やはり安全性が高く長期予後の見込める治療法の確立が必須となっています。本学においては口腔内スキャナーや3Dシミュレーション等のシミュレーションソフトを活用して確実な診断を行い、安全で正確な手術を行うために、シミュレーションから起こしたサージカルテンプレートや、X-Guideというリアルタイムナビゲーションを使用しております。

また、材料材料の進歩による治療オプションの拡大、骨移植・骨補填材の進歩による侵襲の大きい骨造成の回避・自家骨採取の回避でさらなる低侵襲治療を目指し、より多くの患者さんへのインプラント治療の適応を実現したいと考えております。

唇顎口蓋裂や腫瘍切除後の広範囲顎骨支持型装置等に関する問合せも受付けております。ご紹介お待ちしております。